

鍼灸 News Letter

しんきゅう ニュースレター

No.2



これからの鍼灸

身近で優しい医療として、社会での新たな役割をめざす業界の取り組み・現状

News

1. 鍼灸師をめざす若者が増加中
2. ツボの位置、世界で標準化
3. 教育機関での取り組み——臨床実習ガイドライン

Topics

1. 統合医療の柱として注目される鍼灸
2. 新分野における鍼灸への期待と役割

People

(社)全日本鍼灸学会 新会長 後藤修司

Information

鍼灸学術関連イベント・スケジュール 8-9月

鍼灸医療推進研究会概要



鍼灸医療推進研究会[(社)日本鍼灸師会、(社)全日本鍼灸マッサージ師会、(社)全日本鍼灸学会、(社)東洋療法学校協会]では、東洋医学の中核を成す鍼灸について、より多くの方々にご理解いただくためのコミュニケーション活動を推進しています。

メディアの皆様のご要望に応じて、健康・美容に関わる様々なテーマについて詳しい治療院・鍼灸師、医師の方々をご紹介します。また、鍼灸について馴染みのないメディアの皆様には、体験についてもご案内いたします。

これからの鍼灸

身近で優しい医療として、社会での新たな役割をめざした業界の取り組み・現状

世界中で都市化が進み、ストレス、アレルギー、慢性疲労、成人病等々、先進国特有の生活習慣病やトラブルが蔓延しています。「原因が分からず、なんとなく不調」という人々が、子どもから高齢者まで幅広く増加しています。

こうしたなか、古くからの医療「鍼灸」が見直され始めています。身体をひとつの小宇宙としてとらえ、そのバランスが崩れたときに「病」が発症するという鍼灸の考え方が、世界中で注目され、メカニズムの研究や臨床実験も、各国で進められています。長期にわたる検討を経て、ツボの位置が世界で標準化され、今後、医学的研究や臨床比較が益々推進されていくでしょう。

また、最近では鍼灸がスポーツ選手の身体ケアや美容の分野でも重要視され、鍼灸師をめざす若者の数も増加の一途をたどっています。様々な東洋医学や民間療法があるなかで、鍼灸は、専門の大学や養成施設等の教育機関で3年以上の間に知識や技術を習得し、国家試験に合格しなければ資格を得ることができません。教育機関では、これからの社会に求められる優秀な鍼灸師を養成するために、様々な工夫を行なっています。

鍼灸師たちも、人びとの体を診る医療専門職として知識や技術の向上をめざす一方で、鍼灸ならではの安らぎを提供できるよう、人間性を高めるために努力を続けています。

2008年5月30日(金)～6月1日(日)の3日間、京都・国立京都国際会館にて、(社)全日本鍼灸学会学術大会(京都大会)が開催され、3,000名超の参加者が集まり、いずれの会場も大盛況でした。最近は特に志の篤い若い人たちの参加が目立ちます。

大会では、様々な研究発表が行なわれましたが、同時に、「鍼灸業界」にとっての将来を考える企画も展開されました。

本ニュースレターで、今、新しいステージを迎えつつある鍼灸について、現状や可能性の一端をご理解いただくことができれば幸いです。



1. 鍼灸師をめざす若者が増加中

2008年春に実施した「平成19年度はり師・きゅう師国家試験」の結果によると、平成19年度の合格者(受験者)は、はり師・4,347(5,561)名、きゅう師・4,344(5,539)名となり、はり師、きゅう師をめざす若者が増加しています。この背景には、現代社会において、医療としてはもちろん、未病や美容、またスポーツケアなど、鍼灸が注目され役立つ分野が拡大し、一方では2000年の規制緩和以降、はり師・きゅう師を養成する教育機関が増えていることが考えられます。

鍼灸の業界では、増加するはり師、きゅう師が社会に役立ち、生涯、誇りを持って仕事を続けていくために、専門職としての資質の維持と向上が最も重要と考え、様々な取り組みを推進しています。

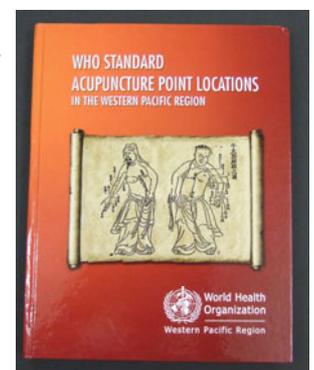
<国家試験受験者、合格者数>

	はり師 合格者数	はり師 受験者数	きゅう師 合格者数	きゅう師 受験者数
平成10年度	2,138	2,679	2,136	2,661
平成11年度	2,230	2,752	2,214	2,715
平成12年度	2,217	2,660	2,233	2,631
平成13年度	2,237	2,645	2,255	2,613
平成14年度	2,663	3,179	2,627	3,136
平成15年度	2,998	3,753	2,958	3,739
平成16年度	3,396	4,271	3,382	4,271
平成17年度	3,789	4,707	3,785	4,704
平成18年度	4,068	5,275	4,072	5,261
平成19年度	4,347	5,561	4,344	5,539

2. ツボの位置、世界で標準化・・・WHO 標準経穴部位英文公式版 発刊

世界的規模での鍼灸研究のスタートライン整備

2008年5月、「WHO 標準経穴部位英文公式版」が発刊されました。日本語版は秋の発刊に向け現在、準備中です。「WHO 標準経穴部位英文公式版」の発刊を記念し先日開かれた講演会ではWHO 西太平洋地域事務局・伝統医学地域諮問官、崔昇勲氏を始め、経穴部位標準化を推進したメンバーたちが、このプロジェクトの意義と内容を解説しました。



写真「WHO Standard Acupuncture Point Locations in the Western Pacific Region」

鍼灸が統合医療の大きな柱として注目される現在、世界的規模で鍼灸のメカニズム研究や臨床実験も各国で進められています。こうしたなかで行なわれた今度のプロジェクトは、ゴールではなく、鍼灸研究のスタートラインの整備ということができます。

伝統医学におけるスタンダードを進める WHO フォーカスプラン

WHO 西太平洋地域事務局・伝統医学地域諮問官、崔昇勲氏は、講演で以下のような内容を述べています。

……20 世紀半ば以後、鍼灸は活発な科学研究の対象であったにもかかわらず、その有効性はよく理解されておらず、西洋世界の研究者や臨床者の間で論争の標的となり続けています。これに関連して、国によって部位の異なる経穴が 92 あることが、複数の鍼灸臨床者によって報告され、このことが鍼灸治療の有効性や安全性、あるいは研究・教育に関する不信感を増長させることとなったと考えられます。当然、WHO 加盟国の間で、経穴部位の標準化を求める要望が高まってきました。

また、鍼灸を始めとする伝統医学は、健康維持や疾患の治療において、人を全体で診るケアの知識や技術、施術であるという役割を認識されています。何世代もの年月を経て手から手へと受け継がれてきた伝統医学には、多くの課題が存在します。

例えば

- 1) 国により認識度合いに幅がある
- 2) 多岐にわたる治療効果に関する有効な科学的根拠の欠如
- 3) 地域固有の伝統医学知識の保護に関する諸問題
- 4) 伝統医学の適切な使用を保証するシステムの問題



これらの諸問題を解決するために WHO 西太平洋事務局(WPRO)は、「エビデンスに基づいた手法による標準化」というテーマのもとに、政策や規則、標準、臨床、研究、教育、情報に関する WHO フォーカスプランを進めています。

伝統医学におけるスタンダード、その役割は、伝統医学の質や安全性、信頼性、有効性、互換性を高め、経済コストの観点からも利益をもたらすことです。

経穴部位標準化までの経緯

日本では 1965 年に日本経穴委員会がスタートしました。同年 10 月、第 1 回国際鍼灸世界学会で、第 1 回国際経絡経穴委員会が開催され、ツボを国際的に統一することについての合意がなされました。これはとても画期的なことでした。その後、1981 年に WHO の要請により開かれた会議を契機に、中国と日本の間で統一に向けた作業が進められました。

プロジェクトが再び始動したのは 2003 年。組織作りが着手され、2004 年 4 月、第二次日本経穴委員会が発足し作業が本格的に開始されました。この時から 4 年間に、中国、韓国、日本の間では 11 回、日本国内では 45 回の会議が重ねられ、途中、2006 年秋のつくばでの合意形成を経て、今回のテキスト発刊となりました。

一言で、「統一」、「合意」といっても、簡単なことではなく、WHO・崔氏は「中国や韓国、日本のエキスパートが次回の会合場所の決定さえ、互いに譲らなかった会議のことを明確に覚えている」、「ほとんど実現不可能な夢のように思われていました」と語りました。こうした諸国間の障壁は、会議を多数重ねることによって、徐々に取り除かれ、理解が深まっていたのだそうです。

日本の委員会参加メンバーの方たちからも、「途中で頓挫するのではないかと思った」という話が多々ありました。長い伝統を持つ鍼灸の世界で、今回のプロジェクトの重要さが伝わりました。

3. 教育機関での取り組み——「臨床実習ガイドライン」発行

教育機関、指導者における自己点検・評価も重要視

鍼灸師養成施設が加盟する(社)東洋療法学校協会では、近年、鍼灸師を養成する施設が増加する中、鍼灸師として巣立つ若者たちの資質の向上を重要視し、教育システムの充実に努めています。

卒業前教育での臨床実習をより有用に行なうため、また、全国の養成施設の指導者たちが改めて共通の認識で自己点検や評価をできるようにという趣旨のもと、特別委員会で検討を重ね、「臨床実習ガイドライン」を作成し、全国の会員校 47 校に配布いたしました。

「臨床実習ガイドライン」は、各校の実施状況を考慮して、臨床実習における到達目標を段階的に記載しています。各校における教育の自己点検・評価を通して、臨床実習のレベルアップをめざし、社会に役立つ有能な人材の育成につなげていきたいと考えています。

<臨床実習ガイドライン 内容（概略）>

- I. 臨床実習の意義と教員の役割
- II. 臨床実習カリキュラム
- III. 臨床実習における自己点検・評価
- IV. 医療事故の予防、発生後の対応
- V. インフォームド・コンセント
- VI. 「賠償責任保険・傷害保険」
- VII. あはき(※)臨床実習におけるモデルケース

(※)あはき=あん摩マッサージ、はり、きゅうの略称



Topics

1. 統合医療の柱として注目される鍼灸

昨今、「統合医療」の動きが盛んになってきました(「代替医療」、「補完医療」等と呼ばれることもあります)。高齢化、環境変化、食事の乱れやストレスなどによって慢性疾患や原因の分からない症状が増加しているため、薬剤などによる西洋医学の治療の他に、理学療法や看護、栄養管理、さらには伝統医療を含めた総合的なサポートを行なう医療のことです。病人を病気からとらえるのではなく、体全体を診て、患者の QOL(クオリティ・オブ・ライフ)の向上を図ることが重要になってきています。

なかでも、鍼灸は、特にその役割を期待されています。実際に、様々な医療機関等で試みが展開され、着実に効果が検証され始めています。

<統合医療における鍼灸治療・研究の事例>

● 維持透析患者の愁訴、腎機能改善

……埼玉医科大学 東洋医学科、腎臓内科、健康管理センター

人工透析を受けている人は全国に 25 万人以上いるといわれ、この数はさらに増加傾向にあるそうです。多くの透析患者にかゆみやだるさ、痛みなどの全身症状があるといわれますが、薬を多く服用している反面、水分のとり過ぎはよくないなどの問題がある中、全身の症状を改善するために、鍼治療に着目し臨床研究が進められています。実際に、痛みやかゆみ、だるさの軽減、睡眠の向上などの効果が報告されています。

● COPD(慢性閉塞性肺疾患)

……京都大学大学院医学研究科

COPD は、喫煙や有毒ガスの吸入が契機となり発症する慢性の呼吸機能障害で、労作時の呼吸困難が主訴となる疾患。40 歳以上の日本人の 500 万人以上が COPD に罹患しているという報告があり、「国民衛生の動向」でも死因の 10 位と報告されているそうです。COPD の治療において、長期的な呼吸機能改善や QOL 向上を目的とした全人的なアプローチの重要性が強調されるようになり、また、近年の報告で、鍼灸治療が COPD の労作時呼吸困難の改善に寄与する可能性が示されています。

● 難治性疼痛の改善

……自治医科大学

● がん患者の痛みの軽減

……国立がんセンター

統合医療が進んでいる米国

毎日放送の橋本佐与子さんが、全日本鍼灸学会学術大会(京都大会)にシンポジストとして参加されました。昨年春放送の「VOICE」で取材・キャスターを担当した橋本さんが、同番組で鍼灸を取材したのは、2006 年に大阪大学で補完外来がスタートしたことがきっかけだったそうです。その後、補完医療の最前線を訪ね、2006 年末と 2007 年末に米国カリフォルニア大学の統合医療センターで、同じ患者さん取材したところ、1 年間で痛みは確実に緩和されて明るい表情になっていたというお話でした。

橋本さんの印象では、米国では、セレブの鍼ブームに始まり、色々なスタイルで人びとが鍼灸治療を取り入れていて、先入観がないように見えるそうです。日本では「東洋 VS 西洋」といった感が否めないそうですが、「どちらにしても、患者さんにはたくさんの選択肢があるべきではないか」と語っていました。



3. 新分野における鍼灸への期待

鍼灸が得意な疾患といえば「肩こり」、「腰痛」、「膝の痛み」がまず挙げられますが、最近はその新たな分野への可能性に業界の内外から大きな関心が寄せられています。「美容鍼灸」に関しては、「きれいになるためには全身の凝りやバランスを直す」という考え方を中心に、ダイエットやしみやシワなどの改善にも鍼灸を利用する人が増えていると聞きます。また、美容や健康、特に女性の月経不順の改善をめざす冷えの改善に、鍼灸は有効だということです。

全日本鍼灸学会学術大会(京都大会)の会場でも、美容関係の発表会場は、鍼灸師をめざす女子学生を始め多くの方々に立ち見が出るほどでした。

また、「今だからこそ、心の病と鍼灸治療」のシンポジウム会場もほぼ満席状態で、「心の病」への関心の高さがうかがえました。[座長: 明治国際医療大学 准教授・福田文彦、演者: 京都府立医科大学 精神医学教室委員・中前貴、大阪大学 大学院医学系研究科 助教・平井啓、医療法人社団洋光会いずみ医院 理事・岩泉瑠實子]

うつ病は、自殺者の多くがうつ病であることなどからも、重要な社会問題となっていますが、精神症状に加えて、食欲低下、睡眠障害、疲労感などの身体症状を伴うことが特徴です。うつ病が増加傾向を示している日本では、鍼灸治療に来院する患者さんの中に、うつ病(うつ状態)の方が増えてくることが予想されるため、鍼灸師はうつ病(うつ状態)に関する正しい知識や治療法を理解することが必要です。



People

「身近で優しい医療＝鍼灸が果たす5つの分野への貢献」

…全日本鍼灸学会 新会長 後藤修司

去る5月末、社団法人全日本鍼灸学会平成20年度総会で、(社)東洋療法学校協会監事である後藤修司氏が新会長に就任しました。2008年度、全日本鍼灸学会では「若い力が育ち、若い力がみなぎる、社会に貢献する学会」を目標として掲げています。

「鍼灸が社会に果たす貢献とは、5つの分野に分類される」と後藤新会長は述べています。

鍼灸が社会に果たす5つの分野への貢献

1. 治療医学分野

1) 有効性の根拠が比較的高いもの: 鎮痛作用の応用、末梢循環動態・微小循環動態の改善作用の応用、筋肉の緊張緩和作用の応用、自律神経機能の調整作用の応用、免疫力の賦活作用の応用。

2) 有効と思われるもの: 健康保険の対象となる「神経痛、リウマチ、腰痛症、五十肩、頸腕症候群、頸椎捻挫後遺麻酔科」の他、整形外科はもちろん、内科、産婦人科、泌尿器科、耳鼻咽喉科など臨床各科で様々な疾患や病態に用いられています。

3)有用性があるもの:高齢者、慢性病、難治性疾患などの愁訴を改善する作用の他、在宅医療や終末医療および緩和ケアへの活用、薬物の副作用軽減や薬物の量を敬遠する作用、依存症離脱への補完作用等々。

2. 予防医学分野

未病治医学。二次障害の予防、認知症の予防、寝たきりの予防等。

3. 社会医学分野

1)医療経済への貢献:費用対効果の高さ、疾病予防による経済効果、薬剤費を軽減するための補完効果等。2)医療システムへのありかたへの貢献:セルフケアの視点、スキンシップを大事にする優しい医療という視点等。

4. 科学分野

未知領域科学の発展への貢献:免疫機能の解明、恒常性保持機能や心身相関の解明等

5. ライフスタイル分野

バランスと協調が大事だということに気づく可能性、エコロジーの視点等

全日本鍼灸学会 概要

鍼灸学術団体としては唯一の法人格(1980年4月1日認可、文部省所管)をもつ日本を代表する鍼灸医学の学術団体。現在の会員数は約4,700名で、鍼灸師(国家資格の正式名称は「はり師」、「きゅう師」)をはじめ、医師、歯科医師、看護師、理学療法士、医科学等の研究者など鍼灸医学に関心を持つ人たちが加入。

会長プロフィール

1949年5月生まれ、東京都出身

1975年 東京教育大学(現・筑波大学)教育学部(理療科教員養成)卒業

1984年 東京大学医学部大学院(保険管理学)研究生修了

1991年 昭和大学医学部にて医学博士学位取得

1977年 東京衛生学園専門学校学校長就任、1988年 神奈川衛生学園

専門学校学校長・学校法人後藤学園理事長就任、

1993年 中華人民共和国天津中医学院 客員教授就任、

2003年 Acupuncture and Integrative Medicine College, Berkeley(米国カリフォルニア州)理事長就任。

(財)東洋療法研修試験財団理事、日本看護学校協議会理事、(社)東洋療法学校協会監事。

2008年6月より全国リハビリテーション学校協会名誉会長、(社)全日本鍼灸学会会長。



♥座右の銘

「我以外皆我師」(われいがいみなわがし):人と接することで新しい発見や気づきを得ている。

「一日一回は空を見上げよう」。

♪趣味

朝の散歩

音楽:モダンジャズ、室内楽(特にチェロ演奏)

読書(積読が多いが)、セーリング、水泳、剣道(今は素振りだけ)

Information

鍼灸関連イベントスケジュール 8-9月

鍼灸の学術関連イベント情報です。参加ご希望の場合はメディア窓口までお問い合わせください。

日程	イベント名	会場
8月8日(金) ~10日(日)	経絡治療学会夏期大学	東京・二松学舎大学
8月17日(日)	日本中医学交流会	東京・タワーホール船堀
8月24日(日)	日本鍼灸師会・学術講習会 「女性とスポーツ」 —妊娠中の運動— 日本医科大学多摩永山病院 女性診療科・産科 教授 中井章人	東京・日本鍼灸会館 (豊島区南大塚)
9月21日(日)	日本小児はり学会	大阪市・森ノ宮学園
9月28日(日)	日本鍼灸師会・学術講習会 「スポーツ傷害と膝関節疾患」 慶應義塾大学看護医療学部 教授 大谷俊郎	東京・日本鍼灸会館 (豊島区南大塚)

鍼灸 News Letter No.②

2008年8月/発行:鍼灸医療推進研究会

鍼灸医療推進研究会 概要

鍼灸医療推進研究会は、鍼灸医療に携わる組織が協力して設立した任意団体で、鍼灸医療への理解を広めるためのコミュニケーション活動を推進しています。

<鍼灸医療推進研究会 加盟組織>

(社)日本鍼灸師会

〒170-0005 東京都豊島区南大塚 3-44-14
Tel(03)3985-6771 Fax(03)3985-6622
ホームページアドレス <http://www.harikyu.or.jp/>

(社)全日本鍼灸マッサージ師会

〒160-0004 東京都新宿区四谷三丁目 12-17
Tel(03)3359-6049 Fax(03)3359-2023
ホームページアドレス <http://www.zensin.or.jp/>

(社)全日本鍼灸学会

〒170-0005 東京都豊島区南大塚 3-44-14(日本鍼灸会館内)
Tel(03)3985-6188 Fax(03)3985-6135
ホームページアドレス <http://jsam.jp/>

(社)東洋療法学校協会

〒105-0013 東京都港区浜松町 1-12-9 第1長谷川ビル 4F
Tel(03)3432-0258 Fax(03)3432-0263
ホームページアドレス
<http://www.toyoryoho.or.jp/index.php>